



めいじろう

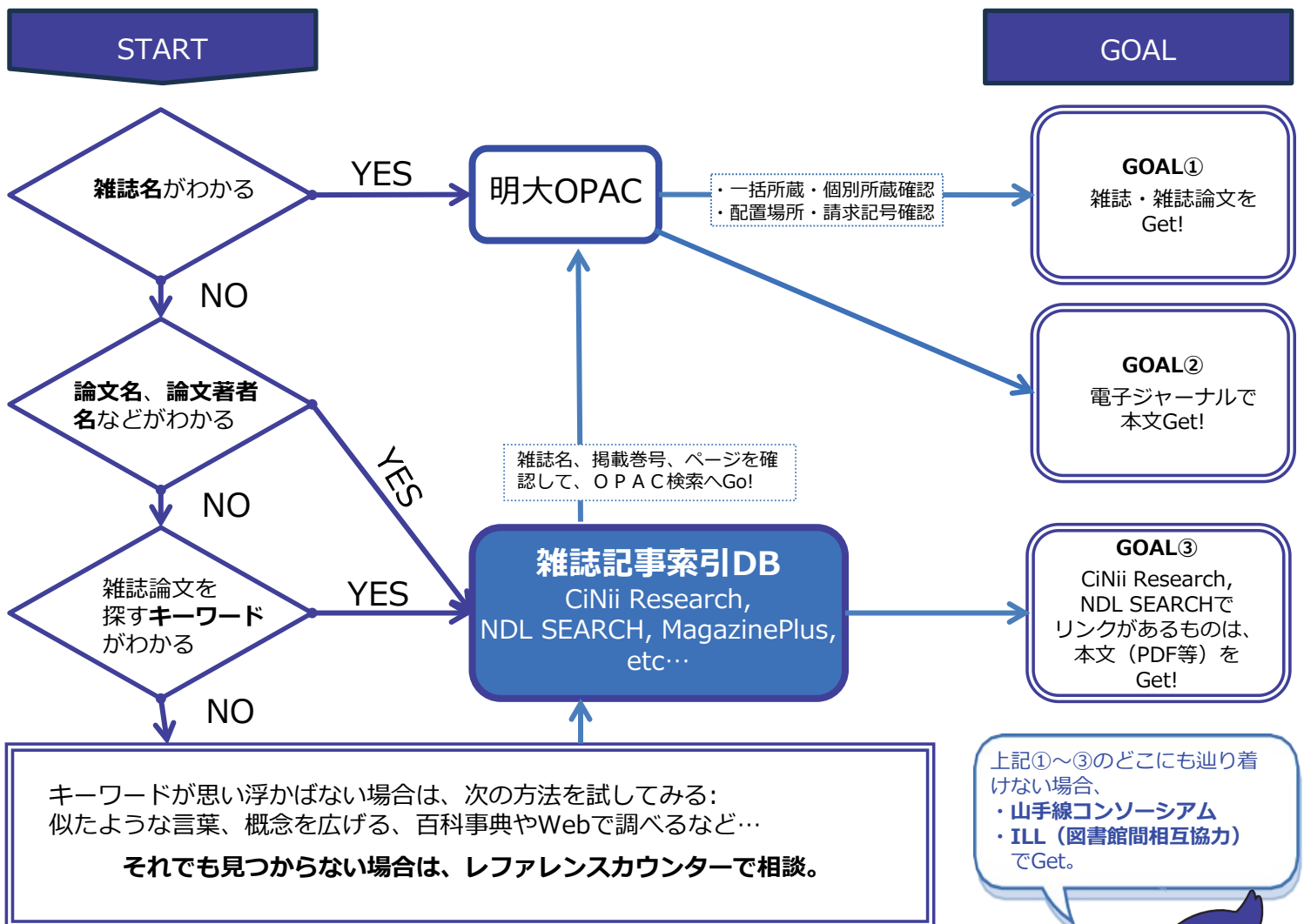
慣れないレポート課題で困っているのかな？
「何から始めればいいのか全然わからない」って感じ？この資料を読めば、何を、どうすすめるかがクリアになるよ。

！ポイント

- ◆雑誌記事索引について理解する。
- ◆雑誌記事索引データベース（和文）の基本的な機能を知る。
- ◆機関リポジトリの概要を理解する。

【1】雑誌・雑誌論文をGetするには！？

このフローで考えてみよう！自分は今どの時点？



注 重要！

- ・利用規約に従って正しく利用する。
- ・大量のデータのダウンロードやプリントアウトを一度に行うことは禁止。
- ・特にプログラム等を利用しての自動的な大量アクセス及びダウンロードは厳禁。



【2】雑誌論文はOPACではなく、専用の雑誌記事索引データベースで探す

雑誌名はOPACで検索できますが、雑誌論文の情報は、OPACではなく専用の雑誌記事索引データベースを使って探します。雑誌記事索引とは複数の雑誌論文を「論文単位」で検索できるようにしたものです。現在はオンラインが主流で、キーワード、著者名などで検索が可能です。

おもな雑誌記事索引DB（和文）

- CiNii Research（提供：国立情報学研究所）
サイニイリサーチ
- MagazinePlus（提供：日外アソシエーツ株式会社）
マガジンプラス
- NDL SEARCH雑誌記事索引（提供：国立国会図書館）
エヌディーエルサーチ

雑誌記事索引DBは、あくまでも「論文があるかどうか」を知るためのもの。論文そのものを読むことはできないよ。



【3】CiNii Researchのタイトル欄に思いついた言葉を入力し論文を検索する

CiNii Researchには、明大OPACのリンク【CiNii Research（日本の論文）】からアクセスできます。CiNii Researchの初期画面は、Googleのようなシンプルな画面ですが、検索ボックス右下の「詳細検索」をクリックするとより詳細な条件で検索することができます。

明大OPAC

CiNii Research（簡易検索）

例として「大学生の読書に関する論文」を検索してみましよう。タイトル欄に「大学生 読書」と入力し、検索ボタンをクリックします。

CiNii Research（詳細検索）

【4】 CiNiiの検索結果一覧には、論文本文を入手するためのナビゲート機能がある

検索結果一覧には、論文本文にアクセスするためのナビゲートボタンがついています。読みたい論文を見つけたら、これらをクリックし、本文が入手できるかどうかを確認します。

目録 大学生と読書：読書環境の変化4

吉田, 昭子 文化学園大学紀要 55 49-54, 2024-03-31

新型コロナウイルス感染症の拡大で学校生活や社会生活は大きな影響を受けた。子どもや成人について行われた調査に関して、新型コロナウイルス感染拡大前後の読書率や本を読まない不読率の推移を調査した。各調査は異なるが、大きな変化は見られなかった。現在大学に在学している大学生の小中高時代の不読率の変化に注と、高校生における不読の状態が大学生になっても継続し…

機関リポジトリ

HANDLE

MEIJI MORE!

雑誌記事索引DBには本文データはないけれど、別のサイトへのリンクボタンをたどって、本文を入手できることがあるんだよ。



おもなナビゲートボタン

MEIJI MORE!

ボタンの表示は、学内ネットワークで利用している時（VPN接続時を含む）に限ります。クリックすると、画面が切り替わり、明大OPACでの所蔵情報が確認できます。

機関リポジトリ

国内外の大学や研究所が、論文などの知的生産物を保存し公開している機関リポジトリにリンクします。

このほか、「J-STAGE」「DOI」「日経BP」など様々なナビゲートボタンがあります。

【論文情報】

- ・論文名：大学生と読書：読書環境の変化4 ・著者名：吉田昭子 ・雑誌名：『文化学園大学紀要』
- ・巻号：55号 ・ページ：p49-54 ・出版年月日：2024年3月31日

【5】 機関リポジトリは国内外の研究機関が公開している電子アーカイブシステム

機関リポジトリは、研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開しているアーカイブシステムです。大学では、学術雑誌掲載論文や電子化された学位論文、紀要などを収録しています。

例えば、「名古屋高等教育研究」に掲載された論文は、名古屋大学の機関リポジトリからダウンロードできるよ。



目録 電子書籍の読書目的と画面フォーマットが読者に与える影響：大学生の読書行為とその認知的負荷に注目して

RYU Jeeheon, LIM Taehyeong, リュ ジジョン, リム テヒョン 名古屋高等教育研究 14 197-214, 2014-03

近年、電子書籍の普及が進むにつれて、電子書籍の読みやすさを高めるための画面設計が重要な課題となっている。電子書籍の画面設計を行う目的は読書のプロセスを支援することにある。読者は読書目的に沿って自分の思考プロセスをはたかせようとするので、読書目的は読書方略を大きく左右するといえる。本稿の目的は、電子書籍の読みやすさを高める上で、画面フォーマットが読者にどのような影響を与えるかを、読書行為とその認…

DOI

機関リポジトリ

HANDLE

ほか2件

